KNT―CTパートナーズ会総会特集

連合会、KNT、CTが協働し

大型イベント生かし、国内外から誘客拡大

東海連合会
総合力で送客拡大を
野尻 辰彦（穂高荘山のホテル）

KNT―CTパートナーズ会員の皆さま、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年を振り返りますと、国内旅行全般は、自然災害の影響もありやや低調な結果となりました。東海におきましては、岐阜県が豪雨による高速道路、JRのストップや台風の影響で停電が相次ぐなど多大な被害を受けました。

一方で、今年は令和元年として新たな記念すべき節目の年となり、GW10連休、オリンピック関連商品の発売など、明るい話題とともに始まります。会社におかれましても、仕入れ、ウェブ、企画部門が一体化した着型仕入体制が本格稼働するとともに、近旅連とひまわり会、クラブツーリズムパートナーズ会が解散し、新たに宿泊、観光、運輸の3部会から成るKNT―CTパートナーズ会が発足致しました。東海連合会は、愛知、岐阜、三重の3県に加え、静岡西部を含めた新組織となります。せんえつながら、私が初代会長の重責を担うことになりました。精一杯務めさせていただきますので、何卒ご指導、ご鞭撻（べんたつ）賜りますようお願い申し上げます。

主な事業活動は、中部観光産業推進協議会と共催での誘致活動と、クラブツーリズムを中心とした地域イベントの取り組みであります。国内誘致では、7月に大阪で、中部7県の観光素材のプレゼンテーション、商談会、各県自慢の食材を提供する懇親会、海外誘致では、11月に台湾、マニラにて主要旅行会社へのプロモーション、交流懇談会を実施致します。地域イベントは、下呂温泉花火と郡上踊り、白川郷民家園のライトアップを計画しています。従来のクラブツーリズムのツアーだけでなく、KNT―CTの総合力による送客拡大を図ってまいります。また、1～3月は、国内全社キャンペーンの仕向地が東海となっており、地元の魅力を全国に発信する絶好の機会となります。情報連絡員会を中心とした情報発信、観光素材提案をさらに充実させてまいります。

最後になりましたが、KNT―CTパートナーズ会と会社のますますの繁栄をご祈念申し上げるとともに当連合会へのご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

関西連合会
大型イベント追い風に
中 照策（かつうら御苑）

元号も新たに「令和」と変わるこの記念すべきタイミングで関西連合会会長の大役をお引き受けすることになりました。63年の歴史ある「近旅連」は解散し、今年4月から新組織「KNT―CTパートナーズ会」が立ち上がりました。2府4県会員の皆さま、どうぞよろしくお願い申し上げます。

4月からスタートしたKNT―CTパートナーズ会ですが、これはKNT―CT会社が進めるグループ事業改革と連動し、ある種パートナーズ会の活動の原点に戻った「地域の活性化」「新規顧客の開発と誘客」「会員施設への誘客」を推進するものと期待しています。2府4県各地元素材をKNT関西会社、クラブツーリズムと一体となり「地域の魅力」「隠れた観光素材」「ユニークな体験」「地元の皆さまに愛される食」といった切り口で、これらの情報をこれまで以上に提供できる仕組みをパートナーズ会で作ります。KNT―CTホールディングスの皆さまもさらに地域密着を図っていただき、共に連携したALL関西で魅力ある商品展開を推進していきましょう。

さて、令和となった関西に目を移しますと、われわれ観光業界にとって大きな追い風が吹くと思われます。今年9月に「ラグビーワールドカップ2019」が開幕することをはじめ、「東京2020オリンピック・パラリンピック」「ワールドマスターズゲームス2021関西」、そして「大阪・関西万博」というこの追い風を会社と共に大きな帆を張って受け止め、進んでまいります。

そのような環境の下、共に環境変化に対応、成長しつつ「宿泊部会、運輸部会、観光部会」の3部会が連携し、事業展開を進めてまいります。その事業活動を行う中で会員の皆さまと会社の方々との連携がさらに深まればと考えます。

そこで関西連合会全体事業として「第1回オール関西大商談会」を9月5日に都ホテル京都八条にて開催致します。各地元に有力な関係性を持つパートナーズ会の皆さまと共に"地元商品素材発掘、展開"を行い、さらなる魅力発信の場を作りたく考えております。地域創生の合言葉の下、会社のご協力もお願いできるとお約束いただいております。こちらも会員皆さまの積極的なご参加、ご協力をお願い致します。

最後になりましたが、本年もKNT―CTパートナーズ会会員の皆さまとKNT―CTホールディングス全社員皆さまの繁栄をご祈念すると共に当関西連合会への一層のご支援、ご鞭撻（べんたつ）を心よりお願い申し上げます。

中国連合会
地域イベント商品展開
梅林 義彦（かめ福）

旧組織となります、近旅連、ひまわり会、クラブツーリズムパートナーズ会の会員の皆さまには格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

このたびは、新組織となりますKNT―CTパートナーズ会中国連合会会長の大役をお引き受けすることとなりました。

新元号、新組織ということで、大変身の引き締まる思いをしております。会員の皆さまと共に中国5県への誘客に努めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

会社では、現地観光（着型）プランを地域会社の仕入企画センターで造成するよう構造改革がなされ、近畿日本ツーリスト（KNT）とクラブツーリズム（CT）のさらなる一体化に向けた取り組みも着々と進んでいると聞いております。KNT―CTパートナーズ会は、宿泊、観光、運輸の三つが一体となった新しい組織となります。会員の皆さまでしっかり連携し、事業展開を行っていきたいと思います。

2019年度の中国エリアでは、広島県で「浅野氏広島城入城400年」、山口県で「YAMAGUCHI MAGIC!」、10月からスタートする「せとうち広島プレDC」など、イベントが多く開催されます。

また、旧組織からの継続事業として地元の祭りや会社主催のオリジナル地域イベントも商品展開してまいります。

中国連合会としては、会社の方針である着型商品造成のための観光情報の提供、支援を行うとともに、今後は会社と連携をし、販促活動も事業展開していきたいと思います。新しい組織で船出したばかりですが、これまで以上に地域密着を図り連携し共に歩みながら新元号とともに前を向いて進んでいきたいと思いますので、会員の皆さまぜひよろしくお願い致します。

最後になりましたが、KNT―CTパートナーズ会会員の皆さまとKNT―CTホールディングスグループ各社の皆さまの繁栄をご祈念申し上げますとともに、中国連合会への一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

北陸連合会
新しい滞在需要獲得へ
萬谷 正幸（瑠璃光）

このたびKNT―CTパートナーズ会北陸連合会の会長職を仰せ付かりました萬谷正幸でございます。旧近旅連の中部連合会やクラブツーリズム北陸連合会とも一体となった「KNT―CTパートナーズ会北陸連合会」として富山県、石川県、福井県の宿泊、観光、運輸部会を傘下に持つ組織として4月から新たに発足致しました。

昨年を振り返りますと、1月から2月にかけて北陸全域を襲った大雪とその風評被害から始まり、夏場の台風被害などもあり、決して良い旅行需要の年ではありませんでした。

その中で北陸を訪れる外国人宿泊者数は延べ129万人と過去最高の伸び率を記録しました。また、今年4月からキャセイパシフィック航空の香港―小松空港定期便就航や豪華客船の寄港など、新しい滞在需要が見込まれています。

来たる2023年春、北陸新幹線敦賀延伸開業まであと4年弱となりました。北陸連合会の誘客事業活動におきましても、三大都市圏からの発地を中心に「新幹線延伸開業の周知」「MICEや教育旅行誘致の強化」「着型観光素材や二次交通の開発と啓蒙（けいもう）」が非常に重要になってまいります。地域でのイベントに加えて、スケールメリットを生かした新たなイベントへの着手への支援も重要になってきます。

北陸連合会では、旧近旅連、旧クラブツーリズムパートナーズ会、旧近畿日本ツーリストひまわり会、そして中部観光産業推進協議会それぞれの活動の利点を生かし、地域でのイベント実施事業、出向宣伝や社員の受け入れ研修、各種商談会の開催を、宿泊部会、観光部会、運輸部会が一体となって推進致します。

期を同じく、金沢に「北陸仕入企画センター」が会社の組織改編後、新組織として発足致しました。地元造成箇所と北陸連合会加盟施設との結び付きが今まで以上に密接となります。各部会や支部活動への支援も合わせ、北陸3県をさらに盛り上げてまいります。皆さまのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

四国連合会
観光商品を協業し開発
大木 正治（ホテル葛城）

新しい元号となるこの記念すべき年に、近旅連、ひまわり会、クラブツーリズムパートナーズ会の現地観光素材を会社、連合会で協業しながら開発し、地域の活性化を図るとともに、お客さまにとって、何度でも訪れたくなる四国を目指し「おもてなし」向上にも努めていきたいと思います。

本年度は、令和2年度の事業として予定されている四国キャンペーンのプレ期間として、商品だけでなく、現地研修にも力を入れていきます。会社でも大きな事業改革が行われ、発型思考であった企画商品を地域会社の仕入企画センターで着型として「地域内商品」を造成し全国（発地）へ発信していく形に大きくかじを切られました。

現地だからこそできる商品展開を期待しておりますし、四国連合会としても、新体制に対し、しっかりと支援していきます。ぜひ会社としても団体、個人、提販、ウェブ、訪日とあらゆる販売チャネルを生かしていただき、総合旅行会社らしい取り組みをお願いしたいと思います。

最後になりましたが、KNT―CTパートナーズ会会員の皆さまとKNT―CTホールディングスグループ各社の皆さまの繁栄をご祈念申し上げますとともに、四国連合会への一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

九州連合会
震災からの早期回復へ
宮原 知司（ホテル龍登園）

KNT―CTパートナーズ会会員の皆さま、本年度もどうぞよろしくお願い致します。

いよいよ、近旅連、ひまわり会、クラブツーリズムパートナーズ会に代わる新組織「KNT―CTパートナーズ会」が誕生致します。それぞれの組織のメンバーが一つの組織となり、一同団結して会社と共に、より大きな成果を獲得するための活動を展開してまいります。

昨年度を振り返りますと、北海道胆振東部地震、西日本大阪府北部地震、西日本地区を中心に発生した平成30年7月豪雨、大型台風、夏の記録的猛暑など自然災害に悩んだ1年でした。この災害で被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げます。

九州もまだまだ2016年4月に発生した熊本地震の風評被害から回復できない状況が続いております。九州全体の宿泊券は、対前年100％と横ばいの状況との報告を受けていますが、その九州の中で鹿児島県、熊本県の宿泊券が回復基調にあります。特に、鹿児島県は、KNT九州が受注された「西郷どん大河ドラマ館」などの影響もあり、同120％と大きく数字が伸びました。熊本県も同113％と熊本地震からやっと数字が伸びてきました。

さて、近旅連九州連合会の18年度の活動ですが、KNT九州の各支店の団体セールスマンを中心に商談会を開催致しました。この商談会には、クラブツーリズム九州旅行センターも参加いただいております。社員研修では、「個人旅行九州社員現地研修」「教育旅行九州現地研修」を実施しました。生の九州を体感することで、販売現場に役立ていただくことができたと自負しております。

本年度の九州連合会事業ですが、昨年同様にまずは熊本地震の影響からの早期の復活を目指して活動してまいります。来年4～6月に、KNT―CTホールディングスグループ全社の九州キャンペーンが実施されます。このチャンスを確実に生かせるように準備を行ってまいります。

また、クラブツーリズムの九州でのイベントによる地域活性化の取り組み、商談会、キャラバンなど従来の近旅連での取り組みも継続してまいります。二つの組織の活動を融合させて、クラブツーリズム、近畿日本ツーリスト各社の販売に寄与できるように活動を強化してまいります。

最後になりますが、本年度より「令和」が始まり、同時に「KNT―CTパートナーズ会」もスタート致します。課題は山積していますが、新たなる新体制がより大きな成果を創出することを信じて精進してまいります。皆さまのご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

沖縄連合会
訪日富裕層に沖縄PR
宮里 一郎（沖縄ホテル）

全国のKNT―CTパートナーズ会員の皆さま、本年もよろしくお願い致します。

はじめに、2018年度の沖縄入域客数の報告をさせていただきますと、国内客699万8千人、海外客300万人、計999万9千人となり、沖縄県が本年度目標としておりました、1千万人を達成することはできませんでしたが、入域観光客数は前年の958万人を超え、過去最高となりました。

KNT協力会では、KNT―CTホールディングスの構造改革が進む中、今年の4月12日に「近旅連沖縄連合会」「近畿日本ツーリスト沖縄ひまわり会」「クラブツーリズムパートナーズ会沖縄」の3組織は解散し、その後、宿泊、観光、運輸を統合した新組織「KNT―CTパートナーズ会沖縄連合会」が全国で最初に設立致しましたことをご報告申し上げます。

このたびは新たな組織が設立され、これからは宿泊、観光、運輸の3機関が同じ組織内で沖縄の誘客活動を共にすることになります。

沖縄の近況報告ですが、沖縄への窓口となる那覇空港が3月18日から、国内線と国際線を結ぶ連結ターミナルビルが供用開始となり、国際線ターミナルが巨大化されました。このターミナルビルの完成により、20年3月末供用開始予定の第二滑走路の準備が整ったことになります。

離島に目を向けますと、宮古島の下地島では、3千㍍の滑走路を有する二つ目の空港「みやこ下地島空港」が3月30日に開港し、国内外路線が増加し、宮古島への受け入れ体制が拡充されました。

また、沖縄本島に目を向けますと、訪日FIT客がターゲットと思われる、台湾企業による那覇市内国際通りに、大型ホテルが進出し、ホテル進出計画も多くみられます。さらに、西海岸リゾート地区では、今年最も話題性のある日本初進出のハレクラニ沖縄が7月26日に名護に開業（予定）するなど、沖縄観光の富裕層の受け入れはより拡充をしております。

先月、琉球新報の調査では、沖縄県では19～20年内に開業予定ホテルが44施設あり、客室数が7350室増える見込みという調査結果記事が掲載されておりました。

今年は、20年の東京オリンピック・パラリンピックの前年であり、来年世界各国から訪れる、オリンピック観戦客やオリンピック参加選手のオリンピック閉会後に、日本国内観光地として、沖縄に誘客することができるかが、今年1年に課せられています。よって、令和元年は、沖縄が訪日富裕層に沖縄リゾートをPRできる絶好の好機でもあります。

ついては、本年度はオリンピック訪日外国人に沖縄への誘客活動をするようよろしくお願い申し上げます。